

長崎医療センターでの後期研修を終えて

北九州市立医療センター 麻酔科

茗荷良則(平成 19 年 鳥取大学卒)

私は鳥取生まれで、地元の大学を卒業後に長崎医療センターでの研修を選択しました。将来は田舎(地元鳥取)でお爺ちゃん、お婆ちゃんを相手に内科か整形外科をしようかと思っていました。この曖昧な将来像が漠然としたモチベーションになり、患者さん、上級医、コメディカルの方々に迷惑をかけた 2 年間は、日々落胆と葛藤の繰り返しでした。

長崎医療センターは「21 世紀をリードする理想の病院」というコンセプトで 2003 年に新病院に建て替わりました。初期・後期研修について「指導体制が良い」とか、「地域医療から最先端医療まで担っている」とか月並みなおべっかはいくらでも言えますが、私自身はこの病院で医師としてのスタートを切れたことを誇りに思っています。

有名な研修病院は全国に多数ありますが、説明会で聞いた症例数が得られるか、教育法が徹底されているかは不明です。口下手な背中で見せるタイプの上級医もいるでしょうし、症例数や手技数が多くても同科の研修医やレジデントの人数によって配分が少なくなってしまう。逆に「教えてもらえない」、「手技が回ってこない」などは自分自身の臨床姿勢に問題があるからかもしれません。しかし、長崎医療センターは各科に一流の先生がおられ、また各科の垣根が低いので、学ぼうとする姿勢さえあれば充実した研修になることを保証します。

私自身の後期研修は、初期研修開始時には全く想像していなかった麻酔科の医師としての勤務でした(自分で決めた専攻ですが)。研修スタート時、若手の麻酔科医が少なかったのも、呼吸器外科、心臓血管外科、食道外科、移植、帝王切開、緊急手術などの難易度の高い麻酔を優先的に担当させてもらいました。自分以外は、専門医の先生方がほとんどでしたので、守られながら、恵まれた環境で研鑽を積むことができました。

手術室はアンギオ室を含めて 11 室あり、5000 症例/年を超える手術数のうち 3000 症例以上を麻酔科管理していますので、麻酔科標榜医、専門医資格の条件を十二分に満たすことができます。当院の手術症例は幅広く、毎日予定手術が全科偏りなくあります。これらの背景には、ドクターヘリを擁する救命救急センターを有し、県央という立地条件、離島も含めた医療圏の広さなどがあると思います。診療科毎の連携もよく、NICU や熱傷関連の手術、形成外科と合同の再建術、心臓外科と呼吸器外科の合同手術などの麻酔を経験することができます。麻酔科の先生方は皆、優しく経験豊富ですので麻酔法も型にはめずに見守って下さり、「ここは!」という場面では的確に指導して下さいました。新しい麻酔法、鎮痛法も導入しやすい雰囲気があり、臨床データを基にした臨床研究、学会発表などもさせていただきました。麻酔科の主軸は手術麻酔ですがペインクリニック、緩和医療も展開され今後さらなる発展が期待されます。

鎖国時代から海外へ門戸を開いていた土地柄でしょうか、将来長崎に残らない、また医局にも所属していない私のような医師も受け入れてくれる懐の深さが、長崎医療センターにはありました。本院での初期研修及び後期研修を選択肢の一つとして下されば幸いです。